

2010年5月7日  
東日本旅客鉄道株式会社

2010年3月期 期末決算説明会 主なQ & A

Q： 成長投資がリターンにどのようにつながっていくのか、いつつながっていくのか、営業利益としてどのような形で出てくるのか、確認させていただきたい。

A： いわゆる成長投資の分野については、DCF法を用いて投資判断をしたうえで、さらに工事の過程においてもコストダウンを心がけながら投資回収を出来るだけ確かなものにする努力を続けています。一つ一つのプロジェクトについて、厳格に投資判断をしています。

Q： 2011年3月期の連結配当性向は31.3%の見込みとあったが、今後、業績が回復して結果として30%を切るような場合について、どのように考えているのか。

A： 連結配当性向 30%を中長期的に目指していくという目標を立てて、これまでやってきました。2010年3月期の数字はひとつの過渡期の数値として考えています。今後、利益が上昇して連結配当性向が下がるような場合には、また30%を目指していくことになることをご理解いただきたいと思います。

以上